

「アゲハの幼虫模型づくり (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

昆虫の成長を観察するには、モンシロチョウ(「紋のある白蝶」が正しい。「白い紋がある蝶」は誤った解釈。)よりもアゲハのほうが適しているように思う。幼虫もサナギも成虫も、モンシロチョウよりもアゲハのほうがずっと立派である。

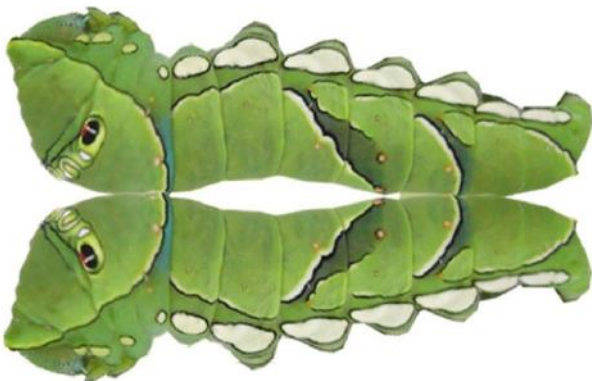
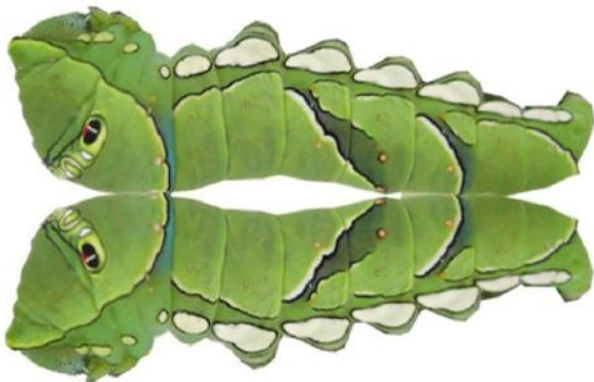
幼虫についていえば、モンシロチョウの幼虫はあまりかわいいとは感じないが、アゲハの幼虫(特に終齢)は、多くの子どもの「かわいい」と感じ、あまり嫌悪感を持たない。不思議な魅力を持った幼虫なのだ。

しかし、アゲハの幼虫をたくさん探するのは大変だし、やはり「ムリ!」という子どもも多い。そこで私は、まず、「幼虫の模型」を作らせることにしている。

この模型のいいところは、上質紙のカラーコピーとティッシュペーパー、それにセロテープとはさみだけで作れるところだ。これなら、被災地の避難所や仮設教室でもきっと楽しく活動できるだろう。



まずは、はさみで丁寧に切り抜く。はさみはあまり動かさず、型紙のほうを動かすのがコツですよ・・・と指導すると良い。こういう作業は、3年生ぐらいの子どもは、非常に喜んでするものだ。紙は、画用紙よりも、上質紙のような薄いもののほうが適している。あとで形を整えやすいのだ。



これが「幼虫の型紙」である(2ページ目に拡大画像)。本物の幼虫を写真に撮って、拡大画像にしたものだ。B5かA4に2匹分ずつ印刷すると良い。このままでは「平面」なので、切り取って、中に「詰め物」をして、立体的な幼虫の模型を作るのである。



切り終わって、背中側から半分に折ったところ。まだこの段階では平面的で、ペラペラである。このあと、セロテープで周囲をつなぎ合わせて、長細い袋状にしてゆく。そこに詰め物をする、面白いように幼虫の立体模型ができてゆく。(つづく)

